



東横堀川の北端、大川からの分岐点に架かる葎屋橋と東詰で接している橋が今橋。かつては離れていたらしいが何度か橋を架け換えるうちに、現在のように2つの橋が接しV字型になった。

今橋の歴史は古く、大坂の陣を描いた絵図などに名前が登場することから、豊臣時代にはすでに架けられていたと推定されている。江戸時代中期には、今橋通りに大両替商が軒を並べるようになり、金相場会所が移されたり長崎貿易品を初め、北前俵物を扱う俵物会所が設けられるなど、金融の中心街として栄えた。それに伴い、京橋町からの道筋に新たに橋を架け換えたので「今ばし」と呼んだとか。当時の町橋としては規模の大きいものだったようだ。

明治初期は木杭で構成された橋脚だったが、同14(1881)年には鉄杭のものに架け換えられ、大正13(1924)年には三径間ゲルバー式鋼板桁を用い、照明灯や高欄に鋳物製を使用した立派な橋となった。しかし鋳鉄類は戦時中に供出された。現在の橋は、平成6(1994)年に架け換えられたもので、照明灯や高欄などは大正13年頃の姿を忍ばせる景観になっている。